

御中

仕 様 書

キュートFPシステム

FP-200 一般工法

(通気緩衝システム)

1. 表 紙
2. 工 程 表
3. 材 料 説 明
4. 注 意 事 項

九州塗料工業株式会社

工 程 表

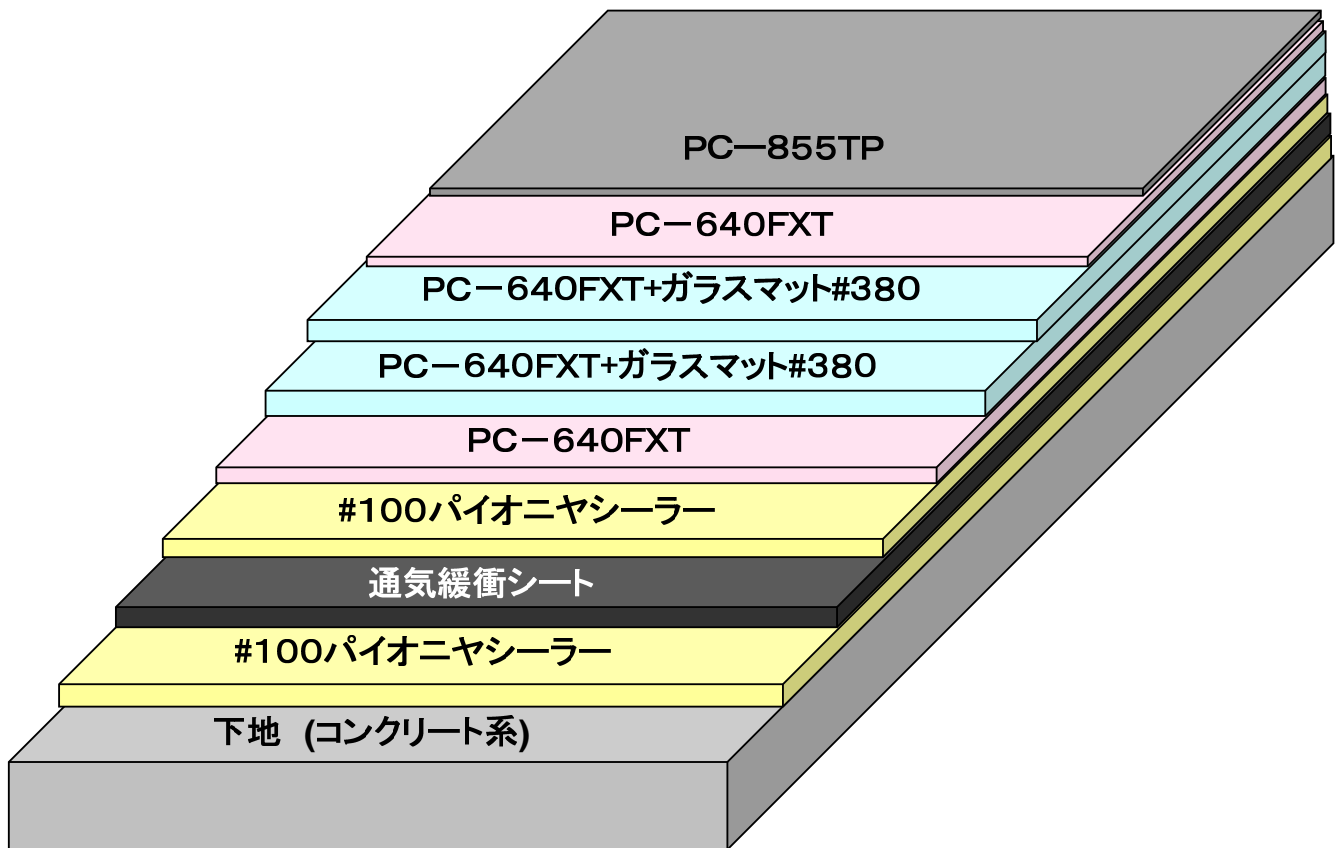
工 程	内 訳	商 品 名	塗布量 kg/m ²
1.下地調整 (コンクリート・モルタル)	(1)浮陸部調整 (2)清掃・洗浄・乾燥		
2.プライマー	(1)ウレタン樹脂塗料塗布	パイオニヤシーラー#100	0.3
不陸調整	(1)クラック・欠け・凹部処理	QコートパテE	
3.通気緩衝シート 貼り付け	(1)シートを貼り付け目地、端部を 各テープで処理する。 (2)脱気筒を取り付ける	FPシート VFラップテープ VF端末テープ ダモステンレス脱気筒	
4.表面処理材	(1)ウレタン樹脂塗料塗布	パイオニヤシーラー#100	0.3
5.下塗	(1)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.8
6.ライニング①	(1)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.5
	(2)ガラスマット敷設	ガラスマット#380	0.38
	(3)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.4
6.ライニング②	1)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.5
	(2)ガラスマット敷設	ガラスマット#380	0.38
	(1)(3)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.4
点検・補修	(2)浮き・膨れの発生したFRPライニング 層はカッター、ディスクサンダー等で切り 取る。 (3)4.の工程で部分補修する。		
7.中塗	(1)ポリエステル樹脂塗布	PC-640FXT	0.5
FRP層調整	(1)全面サンディング (2)ガラスマット毛羽取り		
8.上塗	(1)着色ポリエステル樹脂塗布	PC-855TP(-NS)	0.4

※ 下地調整 : モルタルは金ゴテ平滑仕上げを標準とし、十分に乾燥(含水率9%以下)させます。

※ 角処理 : 外Rは6R以上に、内Rは10R以上に処理してください。

※ 排水勾配 : 勾配は1/100以上とし、水がたまることなく速やかに排水できるようにしてください。

施工図



材料説明

1. プライマー

◎ 商 品 名	パイオニヤシーラー#100
◎ 成 分	湿気硬化型ウレタン樹脂塗料
◎ 使 用 箇 所	コンクリート・モルタル
◎ 液 性	一液型
◎ 使 用 方 法	原液のままローラー刷毛等にて塗布します
◎ 商 品 規 格	14 kg 3.5 kg

2. パテ

◎ 商 品 名	Q コートパテE
◎ 成 分	ポリエステルパテ
◎ 使 用 箇 所	クラック・欠け・凹部処理・目詰め
◎ 液 性	二液型
◎ 使 用 方 法	硬化剤を 0.6~2.0%練りこみヘラ等を利用して欠損部を埋めます
◎ 硬 化 時 間	2~5 時間
◎ 商 品 規 格	19 kg 4 kg

3. 下塗・中塗・ライニング用樹脂

◎ 商 品 名	PC-640FXT (S 夏用・M 春秋用・W 冬用)
◎ 成 分	弾性不飽和ポリエステル樹脂
◎ 使 用 箇 所	下塗・積層・中塗用
◎ 液 性	二液型
◎ 使 用 方 法	硬化剤を 0.6~2.0%添加しよく攪拌後使用します
◎ ゲル化時間	30~60 分
◎ 硬 化 時 間	3~5 時間
◎ 商 品 規 格	20 kg

4. 上塗

- ◎ 商 品 名 PC-855TP (骨材なし) PC-855TP-NS (骨材入り)
FP 各色 (FP グレー、FP ダークグレー、FP モスグリーン、FP グリーン)
(SS 真夏用・S 夏用・M 春秋用・W 冬用)
- ◎ 成 分 不飽和ポリエステル樹脂塗料
- ◎ 使 用 箇 所 仕上げ
- ◎ 液 性 二液型
- ◎ 使 用 方 法 硬化剤を 0.6~2.0%添加しよく攪拌後、ローラー刷毛等にて塗布します
- ◎ ゲル化時間 10~30分
- ◎ 硬 化 時 間 3~5時間
- ◎ 商 品 規 格 20 kg 4 kg

5. 硬化剤

- ◎ 商 品 名 カヤメック・パーメック
- ◎ 成 分 メチルエチルケトンパーオキシサイド (55%)
- ◎ 商 品 規 格 5 kg×2 (ケース) 1 kg×10 (ケース)

6. ガラスマット#450

- ◎ 商 品 名 チョップドストランドマット
- ◎ 商 品 規 格 30 kg=1.04×64m (片耳付き)
30 kg=1.00×64m (両耳付き)

7. 通気緩衝シート

- ◎ 商 品 名 FPシート-
- ◎ 商 品 規 格 1040 mm巾×15m

8. ジョイントテープ

- ◎ 商 品 名 VFラップテープ
- ◎ 商 品 規 格 30 mm巾×50m

9. 端末処理テープ

- ◎ 商 品 名 VF 端末テープ
- ◎ 商 品 規 格 75 mm巾×25m

注 意 事 項

1. FRP ライニングは下地の条件によって性能が大きく左右されます。

- ①下地表面が湿った状態での施工は出来ません。含水率 9%以下に乾燥させてください。
新設コンクリートの養生期間目安は 30～40 日です。
- ②下地表面の油分、ホコリ等はあらかじめ除去してください。
新設コンクリートの場合、表面レイトランスをワイヤーブラシ等で必ず除去してください。

2. プライマー

- ①高温（30℃以上）高湿度（80%以上）で使用の際は 3 時間以内に次工程に進んでください。
- ②プライマー塗布乾燥後、2～24 時間以内に次工程に進んでください。

3. 下塗・中塗・ライニング

- ①ポリエステル樹脂は季節に応じた適切なものを使用します。（S 夏用・M 春秋用・W 冬用）
- ②硬化剤は気温に合わせて規定量添加します。
- ③FRP ライニングの性能は、完全な含浸と脱泡及び樹脂の完全な硬化で始めて発揮されます。
- ④ガラスマットのラップは 50 mm 以上重ねます。
- ⑤施工間隔があいた場合はサンディングして次の工程へ進んでください。

4. 上塗

- ①上塗は季節に応じた適切なものを使用します。（S S 真夏用・S 夏用・M 春秋用・W 冬用）
- ②硬化剤は気温に合わせて規定量添加します。
- ③夏場など直射日光が当たる部分では、空気乾燥剤が浮かずべたつきが残ることがあります。このような場合には直射日光が当たる時間を避けるか、シートで日陰にする等の措置をとってください。

5. 脱気筒

脱気筒を必ず設置して下さい。設置目安は勾配の高い方へ 50～70 m²に 1 個取り付けます。（通気緩衝シート貼り付け後に設置）

6. 通気緩衝シート

- ①変形・接着力低下を防止するため、直射日光を避け立てた状態で保管してください。
- ②貼り付ける際転圧不足は、しわ・剥離・膨れ・クラックの原因になります。
- ③シートを貼り付けた状態のまま翌日まで放置すると水分が付着し、塗膜の硬化不良や膨れが起こる原因になります。シートを設置した日のうちに下塗の工程まで行ってください。

7. 気象条件

- ①気温が5℃未満の時は施工しないでください。
- ②強風又は高温多湿の時は施工しないでください。
- ③降雨、降雪時またはそれが予想される場合、もしくは降雨、降雪後で下地が未乾燥の場合は施工しないでください。
- ④気象条件・気温・施工面温度等に適した季節タイプを使用し、硬化剤の量を調整してください。

8. 火気厳禁・保管注意

- ①周囲での火気使用は厳禁です。万が一、火災が発生した場合は炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
- ②直射日光を避け、冷暗所に保管してください。
- ③多量の硬化剤入り樹脂は容器内で高温発熱し発火する恐れがあるので、容器に残った樹脂には必ず注水してください。
- ④パイオニヤシーラー #100 は危険物の第4類 第1石油類に該当します。
- ⑤Qコートパテ E は危険物の第2類 引火性固体に該当します。
- ⑥PC-640FXT、PC-855TP (-NS) は危険物の第4類 第2石油類に該当します。
- ⑦硬化剤は危険物の第5類 第2種自己反応性物質に該当します。金属との接触を避け、衝撃を与えないようにして下さい。火気に注意し、直射日光があたらないよう冷暗所に保管してください。
- ⑧ガラスマットが湿気を帯びていると樹脂が硬化不良を起こします。雨等に濡れない乾燥した場所に保管してください。
- ⑨使用後の残液は、いずれも有機溶剤作業の関係法令、消防法に従って処理してください。

9. 発火注意

塗料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。多量の硬化剤入り樹脂は容器内で高温発熱し発火する恐れがあるので、容器に残った樹脂には必ず注水してください。

10. 保護具着用

作業に適したヘルメット、保護メガネ、長袖衣服、ゴム手袋、有機溶剤用防毒マスク等を着用してください。

11. 応急措置

塗料・樹脂・硬化剤が皮膚に付着した場合、直ちに水でよく洗い流してください。炎症が生じた場合は医師の診断を受けてください。誤って目に入った場合は、直ちに多量のきれいな水で15分以上洗眼し、必ず眼科医の診察を受けてください。

12. 保管

- ①直射日光を避け、冷暗所に保管してください。
- ②子供の手の届かないところに保管してください。

13. 廃棄方法

中身を使いきってから廃棄してください。廃液・汚泥等は関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。